



『雨と強風下の炭焼き』

通年コース第十五・十六回開催報告「炭焼き等」

ドラムカン窯、移動式炭化炉の点火も無事終わり、お昼を済ませてさて、伐倒の復習に出掛けようかという時になって雨がポツポツ降ってきました。天気予報では午後は晴れ、降水確率

も低かったのですが、だるうと高を括っていたのですが、これがなかなかやみそうにない。結局外に出るのをあきらめて、部屋の中で、製図や施業診断の復習と相成りました。



翌朝、移動式簡易炭化炉(長い!!)の前で

発行 KOA 森林塾 (事務局) 0265-70-7065
編集 早川清志
題字 島崎洋路

夕方、薄暗くなつて雨は止みましたが今度は強い北西の風。玄関先に設置した移動式炭化炉に経ヶ岳方面から容赦なく吹き付ける強風。これら雨と風によって冷やされた炭化炉は、窯止め時間がかかりずれてしまいました。夜中の十二時くらいかなという予想を大きく覆し、朝方の五時でも炭出し時、多少のレアがあったものの大方はウエルダン、四十七キ口のマツ炭の完成です。



火が上から下へ進む通り道になる

この移動式炭化炉は国立林業試験場(現・森林総合研究所)で開発されたもので、200型(底面の径が200ミリ)の仕様によると、450キロの原木量で製炭量が約52キロとあります。注意事項にも、強風の日は避けるとか、厳寒期や大雨の際は炉が冷えて未炭化になりやすい、とかありますので、この悪条件の中、十分な成果だったのではないかと気がします。



びっしりと炭材を詰める。およそ軽トラ山盛り1台分強

さて一方のドラムカン窯。こちらは小屋裏で土の中にすっぽり埋まり、風雨の影響もほとんど受けないので順調に温度が上がリ、夜中の午前一時に窯止めをしました。(したつもりでした)そして炭出しの時、まだ煙が少し出



下段まで熱が回り先端の煙道を閉じる



点火。「君が代」も「信濃の国」も奏でられなかった

してとりあえず土に埋めて消火。半分くらい未炭化があったのでちよつと早かつたかなという感じ。そして、完全な窯止めができていなかったのが反省点です。この辺の匙加減が微妙なのがドラムカン窯です。



通年コース
第十五・十六回
11月21日(金) 炭焼き
8時30分 島崎先生の山小屋に集合。先生のあいさつ。炭焼きの説明
9時30分 一ヶ月ほど前に長さをそろえ小割りにしたヒノキ、サワラの炭材ドラムカン窯に仕込む。すっぽり土に埋めて



ドラムカン窯に炭材を詰める



一斗缶の焚き口から熱を送る



やばい!!!中は真っ赤な熾



ご開帳。まずまずの出来でした



お見事!!背中を感じる熱い視線

10時 点火。お次は移動式簡易炭化炉(これが正式名称らしい)を水平に設置し、こちらは60センチのアカマツ炭材を二段に詰め、その上に良く乾いた木っ端をたくさん乗せる

11時 松葉を焼き付けにし点火。一段目が熱くなるくらいまでは上蓋をせずつに燃やす

12時 昼食。炭化炉に上蓋

1時 さて伐倒の復習に出かけるか、というところに雨がポツポツ。なかなかあがらず、室内にての復習となる

4時30分 椎原さんが来てくれてそばうちが始まった。忘年会の幹事さんたちは食料と飲み物の買出しに。雨は上がったが強い風が吹き、戸を閉めておいても小屋の中に炭焼

6時 忘年会が始まる。おそばとおでん。椎原さん、武田さん、園田さん、お酒の差し入れごちそう様。先生からもお志、ありがとうございますございました。OBの佐藤さん、長坂さんはじめ、伴野さん、溜さんも久し振りに顔を見せてくれました

12時 を過ぎてもお開きになる様子がない。炭化

8時30分 全員集合。まず移動式炭化炉から窯を開

7時 起床。十数人が雑魚寝したのかな

5時 ようやく移動式炭化炉窯止め。雨と強風で随分こじれてしまったものです。もう朝になってしまった

3時 宴会がようやく終わりにかけている

炉からは木酢液が順調に流れ落ちる

1時 ドラムカンの窯止め。まだ煙が白っぽく、煙突先の温度も今ひとつ上がらず自信がなかったが決行。

移動式炭化炉は強風の中、熱のまわりがいつもよりゆっくり。煙突を順次入れ替える。

ける。三時間少しまり冷えていた。三十口米袋に十数袋、計四十七キ口のマツ炭。未炭化は三袋ほどでした。まずまずの成功。木酢液も六リットルくらい採れた。

さてドラムカンは、と小屋裏に回ると、焚き口からわずかに白い煙。迷った末にとりあえず開けると、中は真っ赤な熾。慌ててドラムカンから出して土を被せる。未炭化もあつたけれど半分くらいは炭になっていた模様です。窯止めが甘かったらしい。炭や木酢液は希望者にとっていいものでした。マツ炭は家族で焼肉などに最適。木酢は畑やお風呂に。とりあえずお疲れ様でした

10時 分乗して保科先生の山林見学に出発

11時 戸台のカラマツ山に到着。全国各地から見学に来れるカラマツ間伐展示林は下生えがきれいに刈られている。ヘクター四百本以下にまで落と

す。三時間少しまり冷えていた。三十口米袋に十数袋、計四十七キ口のマツ炭。未炭化は三袋ほどでした。まずまずの成功。木酢液も六リットルくらい採れた。

さてドラムカンは、と小屋裏に回ると、焚き口からわずかに白い煙。迷った末にとりあえず開けると、中は真っ赤な熾。慌ててドラムカンから出して土を被せる。未炭化もあつたけれど半分くらいは炭になっていた模様です。窯止めが甘かったらしい。炭や木酢液は希望者にとっていいものでした。マツ炭は家族で焼肉などに最適。木酢は畑やお風呂に。とりあえずお疲れ様でした

3時 百年もののサワラ、カラマツを見て、ついでに九州熊本から四国吉野川、紀伊半島紀ノ川を通り諏訪湖から下仁田方面に抜ける中央構造線の露

2時 こちらも四十年弱でヘクター四百本くらいに落とされている。実にさっぱりした林。保科先生の山はいずれも歩道が網の目のように入っている。相当な傾斜があつてもそれほど苦労せずに歩け、大助かりです

12時 昼食。天気は良いが少し冷えてきた。美和ダム対岸のカラマツ林へ向かう

12時 純林と樹高三十メートルのカラマツ林分まで上る



もうすっかり初冬の景色

頭を見学。良い勉強になりました。隣でケンポナシの実も拾えましたし
4時 小屋に戻り解散

参加者/相内さん、阿部さん、井伊さん、大河内さん、岡崎さん、小栗さん、小野さん、椎名さん、園田さん、滝口さん、武田さん、西村さん、日比野さん、茂籠さん、矢島さん、小笠原さん、斉藤さん、風見さん
講師/島崎先生
スタッフ/後藤、川島、坂野
早川

リレー通信

万能環境エンジニア目指して
石井 美久

みなさんこんにちは。秋の集中コースに参加させていただいた長野県飯島町在住の石井です。趣味は、長く続いているのは自転車で、二十

次回の予定 第十七回 きのこ菌打ち 3月6日(土)

平成十五年度の最終回になります。原木にきのこの種駒やおが菌を植え付けます。シイタケほか何種類かを試してみましよう。保科、島崎両先生の担当です。

この時期の信州は道路に積雪、凍結の可能性がります。車でお見えの方はスタッフドレスタイヤかチエーンを用意していただくほうが無難です。いずれにしろ、道路情報をお尋ねください。

年程前に購入した自転車三台を自分で整備したり、サイクリングしたりと、妻も引っぱり込んで楽しんでます。最近日曜大工も始め、自宅を建てるときには、内装を妻と二人で行いました。天井や床を張り、トイレやお風呂を作り、照明やキッチンを作り、楽しい経験でした。≪a href="http://www.janis.or.jp/users/yoshin/">http://www.janis.or.jp/users/yoshin/で紹介していますので、ぜひご覧ください。

伊那谷に来て六年になりましたが、豊かな自然を持つと同時に環境破壊も加速的に進んでいるのを感じました。暗い林、不法投棄、コンクリートで固められた川、縦横無尽



気はありませんが、家の前の松林を楽しい森に変えることを夢見ながら、ボランティアに励みたいと思っ

に広がったアスファルトの道、放置された田んぼ、自転車好きの私としては、道路を安心して自転車で走れないこともとても気になります。

自分でできることは無いかと考え、自転車通勤目標百パーセント(これは趣味です)、自動車利用の削減、ゴミ削減を始めました。森林整備ボランティアもやりたいと考え、長野県がやっている「きこり講座」を受講し、伊那で活動しているボランティアグループ「森だくさんの会」に参加しました。森林整備もやってみると奥が深く、人に教えられる程度にレベルを上げたいと思い、まわりの受講者の評判がいいKOA森林塾に参加することにしました。

毎年、夏休みに行く祖母の家は我ら孫たちが一堂に集まる場所であり、実家とは異なる、中国山地の真つ只中の自然豊かな場所でした。家のすぐ裏の急な斜面には畑があり、その上には森が広がっていました。家の前からは、遥か下(といっても高低差は二百メートル程ですが)の谷を縫って流れる高梁川まで、急な斜面に家や畑がちらなっていました。

大きな従兄弟の後を追って山をかけまわり、虫を取ったり、湧き水を飲んだり、鍾乳洞を松明を持って探検したりしていました。知らない間にウルシにかぶれて、真つ赤になったのを覚えていま

川まで降りる道は、急斜面の畑の間をジグザグに縫い、途中よその家の庭先を通り、採石場の崖を迂回して続いていました。川の浅瀬で釣りをしたり、ヨボリという方法で魚取りをしたりしていましたが、川幅が狭いわりに水量が多く、岩をえぐって流れていて、近寄りたがたい川でした。

その後は理工系に進んだ関係で山とは縁がない生活が続ぎ、東京で就職し、あたりまえのように高度成長の中で働いていました。最近、法事で久しぶりに祖母の家を訪れたとき、大きな家は昔のままでしたが、裏の畑は道路に変わり、下の家は廃屋になり、川へと続いていた斜面の細い道も草に隠れて見えなくなっていました。坂道の脇に生えていた木は大きく茂り、荒々しい自然の姿に戻って行くかのようでした。

子供のころ、駆け回っていた山は、そこに住む人たちが手入れをし、維持していた里山だったんだな、とあらためて感じました。森林整備ボランティアで地元のみなさんと山に入ると、木の名前や草花の名前、きのこ探しと知識の多さに驚かされます。自然について勉強はしてきたのですが、もっと当たり前のことを知らなさをすると感じました。

今の不自然な社会は、こんな私のような生活をしてきた多くの人によって形作られていることに問題があると思います。今からでも、こんな当たり前の知識を先人に学び、自然に親しみながら暮らしていけるように心がけようと思っ

森林整備ボランティアをやって、同じような志の方々と知り合いになれたことはとてもよかったです。得意分野が電気系なので、パイオマスや自然エネルギーなどにも手を出して行くつもりです。きこりができて、きのこも探せる環境エンジニア目指してがんばりますので、みなさんよろしくお願

リレー通信

森林塾に参加して
日比野 稔

今年も各地から初雪の便りが届くころになりました。四月から始まった今年の通年コースもあつという間に



終わってしまった感じがします。そこで、森林塾を振り返っての感想などを書いてみたいと思う。

その前に、自己紹介をします。大手電機メーカーのコンピュータの修理会社に三十年以上席を置いているサラリーマンです。出身は岐阜市で、会社に入り二十年間は、東京、神奈川、茨城と転勤を繰り返して、現在は愛知県に戻り春日井に住んでいます。私の写真は数年前に庭に建てたミニログハウスです。四畳の広さで趣味のアマチュア無線の無線機とパソコンなどがあります。

年齢は五十才になり、節目の年として何か新しいことに挑戦しようと考えていました。また、十年ほど前から、中高年登山者の仲間入りをして、昨年は日本で二番目に標高の高い北岳に登りました。山に行くようになり、数年前から森林に関する本を何冊か読んでいたうちに今年になって、「山造り承ります」を読み、早速森林塾に申し込みました。

通年コースが始まり、その夜に懇親会がありました。島崎先生のお話を後日思い出しながら日記に書いておいたものの一部を記します。(島崎先生のお話)

林業はひどい状況が改善されない。森林関係者七万人かつ高齢者で新規には年間二千人から三千人しか林業関係になっていない。数万人が必要である。

木材の価格が三十五年前と同じに下がってしまった。人件費は十倍から二十倍になったのに。外材の輸入を昭和三十年代に始めたが、せいぜい二十%から三十%までだと思っていた。現在、九十%以上になるとは誰も考えていなかった。

本森林の面積が一年半で消費されている。世界では木材が足りなくなってくる。日本では材木が余っている。間伐材は切るだけで運び出す費用が無駄になる。問題はいつばいある。手をこまねいているときではない。やるしかない。私は、使命感でやっている。

森林の保有者は5%である。世代がかわり、まったく森林の手入れがされなくなっている。どこが境界線か所有者がわからない。隣の土地の木を切ることは罪になる。森林の手入れをすることはお金のかかることである。都会の人が森林ボランティアにこられるが、指導できる人が少ない。

以上島崎先生の定番のお話で、「山造り承ります」の本に書いてあることだが、御本人から聞くとやはり迫力があり、納得させられる。何かの縁で、森林塾に入ったのだから、森林に関わってほしいと思った。

(森林塾の講義)

講義の内容は、私には全て新しい事ばかりで、一回聞いただけではすぐ忘れてしまうので、いつもノートと鉛筆を取り出せるようにして、メモ魔になった。施業診断など、初めて耳にする言葉に戸惑いながら、イントラの方に

は、幾度も教えていただきたい。参加後に、自宅を出発してから帰宅するまでの参加記を書いた。読み返してみると、こんなことがあったんだと忘れてしまっていたことを思い出させてくれます。一回しか経験しなかったことでも、幾度か振り返りイメージを思い出すことができると思います。

(チェンソー)

自分の感性に一番響いてきたのは、やはりチェンソーをはじめ使った時の感触です。六月二十日は、造材になっていた丸太切りができるかと考えていたが、塾が始まると、伐倒の説明があり、受け口、追い口、つるなどの言葉も始めて耳にするものだった。

私の班のイントラは椎原さんで、メンバは阿部さん、園田さん、西村さんだった。椎原さんが、「チェンソーを使ったことがある人手を上げて」の問い掛けに手を上げなかったのは私だけでした。近くで見ると初めのチェンソーで、午前中は丸太切をやった。鋸の要領と変わりないと思えば、難しくはなかった。午後になると、伐倒になり、やはり受け口を作るのが難しかったが、少しずつチェンソーに慣れていくことが嬉しかった。

チェンソーをはじめたあの日のことはずっと忘れないようにしようと思う。(これから)

私にとっては森林塾が出発点であり、行き先を見つけてるのはこれからです。まずは森林ボランティアの活動をしたいと思う。また、今は自宅に居ながらにして、世界中の情報やインターネットで見ることができま。先日、林野庁のホームページを見ていたら、六年に一度開催される世界林業会議が九月にカナダで開催され、結果概要が載っていました。毎日森林に関する記事を少しづつ読んでいきたい。そして自然の恵みを得ているお返しを何かしてゆきたいと思う。

同じに下がってしまった。人件費は十倍から二十倍になったのに。外材の輸入を昭和三十年代に始めたが、せいぜい二十%から三十%までだと思っていた。現在、九十%以上になるとは誰も考えていなかった。

本森林の面積が一年半で消費されている。世界では木材が足りなくなってくる。日本では材木が余っている。間伐材は切るだけで運び出す費用が無駄になる。問題はいつばいある。手をこまねいているときではない。やるしかない。私は、使命感でやっている。

森林の保有者は5%である。世代がかわり、まったく森林の手入れがされなくなっている。どこが境界線か所有者がわからない。隣の土地の木を切ることは罪になる。森林の手入れをすることはお金のかかることである。都会の人が森林ボランティアにこられるが、指導できる人が少ない。

以上島崎先生の定番のお話で、「山造り承ります」の本に書いてあることだが、御本人から聞くとやはり迫力があり、納得させられる。何かの縁で、森林塾に入ったのだから、森林に関わってほしいと思った。

(森林塾の講義)

講義の内容は、私には全て新しい事ばかりで、一回聞いただけではすぐ忘れてしまうので、いつもノートと鉛筆を取り出せるようにして、メモ魔になった。施業診断など、初めて耳にする言葉に戸惑いながら、イントラの方に

は、幾度も教えていただきたい。参加後に、自宅を出発してから帰宅するまでの参加記を書いた。読み返してみると、こんなことがあったんだと忘れてしまっていたことを思い出させてくれます。一回しか経験しなかったことでも、幾度か振り返りイメージを思い出すことができると思います。

(チェンソー)

自分の感性に一番響いてきたのは、やはりチェンソーをはじめ使った時の感触です。六月二十日は、造材になっていた丸太切りができるかと考えていたが、塾が始まると、伐倒の説明があり、受け口、追い口、つるなどの言葉も始めて耳にするものだった。

私の班のイントラは椎原さんで、メンバは阿部さん、園田さん、西村さんだった。椎原さんが、「チェンソーを使ったことがある人手を上げて」の問い掛けに手を上げなかったのは私だけでした。近くで見ると初めのチェンソーで、午前中は丸太切をやった。鋸の要領と変わりないと思えば、難しくはなかった。午後になると、伐倒になり、やはり受け口を作るのが難しかったが、少しずつチェンソーに慣れていくことが嬉しかった。

チェンソーをはじめたあの日のことはずっと忘れないようにしようと思う。(これから)

私にとっては森林塾が出発点であり、行き先を見つけてるのはこれからです。まずは森林ボランティアの活動をしたいと思う。また、今は自宅に居ながらにして、世界中の情報やインターネットで見ることができま。先日、林野庁のホームページを見ていたら、六年に一度開催される世界林業会議が九月にカナダで開催され、結果概要が載っていました。毎日森林に関する記事を少しづつ読んでいきたい。そして自然の恵みを得ているお返しを何かしてゆきたいと思う。

漬け方は簡単、葉七葉十口(最初はこれくらいが無難)を良く洗い一晩水切り。塩二百グラムとザラメ、黒砂糖、唐辛子、昆布、醤油、酒は適当量。

桶の底から隙間なく並べ、一段毎に塩その他を振る。最後に醤油をかけ、内ぶたをして重石二十キロ以上。二、三日で水が上がりやすくなりますので軽い重石に変える。これだけもう食べられますが、桶に氷が張るくらい冷えると最高の味になります。是非お試しください。

おわりに

早いもので、植林から始まった十五年度通年コースも三月のきのこ菌つちを残すのみとなりました。しばらく間があきますので地元で復習を。何か不明の事や疑問点などありましたら、事務局に遠慮なくお尋ねください。ではちょっと早いけれどメリークリスマス&ハッピーニューイヤー!!



コラム

十一月も終わりになると例年は野沢菜を漬ける季節なのですが、今年は朝方の冷え込みが弱く、まだ葉が青々としています。霜に三回当てると柔らかになると言われていますので、伊那界隈では十二月最初の週末くらいが適期かと思われま

投稿大歓迎。ご意見、ご質問、ご要望、事務局まで。

TEL 0265-70-7065
FAX 0265-70-7994

E-mail:
ki-hayakawa@koanet.co.jp
sh-sakano@koanet.co.jp
携帯:090-4463-0062(開催日)
URL http://www.koanet.co.jp

